

## 武蔵村山市第二次まちづくり基本方針(原案)に関する 住民説明会の意見概要と市の考え方について

日時:令和4年10月14日(金) 午後 7時～ 参加者1名  
10月15日(土) 午前10時～ 参加者7名  
場所:さくらホール展示室

No	意見の概要	市の考え方	修正の有無
全体			
1	・20年後の将来像に向けて、具体的にいつ何をしていくのか具体的に分からない。	・本方針は、将来イメージや方針を示しているもので、具体的な施策や時期については、今後個別の計画を作成し、示していくことになる。なお、現在策定されている個別の計画は、市のHPで確認できる。	無
2	・まちづくりを進めるうえでの横断的な組織について検討してほしい。	・庁内で横断的に共有できる組織を検討していく。	無
第1編 まちづくり基本方針について			
3	・人口が減少している中で、将来人口 8 万人は相違があるのではないかと。公共施設計画では、人口が減少する推計となっており、市の計画の中で数字が異なるのはおかしいのではないかと。	・将来人口については、都営村山団地の建替えや多摩都市モノレール延伸の効果、子育て世代への施策などを踏まえて設定している。本方針では、「第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「第五期長期総合計画」を参考に数値を出している。	無
第2編 全体構想			
4	・東京都の緑農住まちづくりの考え方を取り入れてほしい。	・公園や河川の整備、市民体験農園や防災協力農地といった農地の活用については記載している。他にも本方針と方向性が合うようなものがあれば取り入れていく。	無
5	・多摩都市モノレール延伸後の武蔵砂川駅へのアクセスはどうなるか。	・多摩都市モノレールの延伸に向けて、公共交通ネットワークの検討を進める必要がある。武蔵砂川駅は立川市域であるが、北口の道路整備計画はある。	無
第3編 地域別構想			
6	・地域別構想の地域区分について、青梅街道より北を一体の地域(狭山丘陵地区)とし、4地域とした方が分かりやすい。	・市としては、多摩都市モノレールの延伸による新駅を核として、都市核やサブ核を中心に、北と南に波及効果のあるまちづくりを進めたいと考え、3地域とした。	無

第4編 将来像の実現に向けて			
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PDCA サイクルを回すには、目標となる期間や数値が必要だが、記載がない。どのように目標を達成していくのか。また、費用は概算でどの程度か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方針の中に目標値や費用を示すことは難しく、個別の計画の中で示していくことになる。一定の期間を設けて、具体的な施策の取り組み状況や道路の整備率などの進捗状況を所管課に照会し、チェックしていこうと考えている。</li> </ul>	無
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が気軽にまちづくりに参加できることが伝わるようにしてほしい。</li> <li>・市民同士でアイデアを出す場、話し合える場を作してほしい。</li> <li>・西地域は交通が不便で、若い人は出て行ってしまう。モノレールができればよい方向に向かうと思う。市に任せただけでなく、住民としても市に働きかけを行っていきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりへの市民参加について周知の方法を工夫したい。</li> <li>・意見を交わせる場づくりについて検討したい。</li> </ul>	無
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・P117 の地区まちづくり計画は既にあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり条例の中で規定がある。市民発意でまちづくりのルールが決められる。過去に新青梅街道沿道地区で、市民と市の協働による地区まちづくり協議会が組織された事例がある。現在は地区まちづくり準備会が1件認定されている。</li> </ul>	無